

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と年度の職場目標を各フロアに掲示しております。経営理念、職場理念は変わらず、職場目標を年度毎に、管理者が職員間にも意見を求め、統括して掲げています。	経営理念「愛・奉仕・感動」、職場理念「笑顔・協力・初心」、職場目標「ご利用者と職員が笑い合える和やかな雰囲気作りを大切に地域医療との多職種体制が更に安心して生活を送ることができる」と玄関やフロアなど目に見えるところに掲示してあることで職員感で共有に努めている。職場目標は、年度ごとに管理者が考え職員の意見も聞きながら目標を立て、職員が目標に向かって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、コロナの影響にて、地域の方を招いての交流はできませんでしたが、今年も苑前のご近所の方が、クリスマスに庭をライトアップして、ご利用者を楽しませて下さいました。	コロナ禍で外出も地域との関わりも少なくなってきてはいるが、事業所前の住民の方が冬のクリスマス時期になると毎年、自宅をイルミネーションで明るく照らし事業所の人にも楽しんでもらえるようにとライトアップしてくれるなど、地域の方とのお付き合いが見え、愛されている様子が窺える	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も、地域に発信する機会がありませんでしたが、地域の区長や交番所長にも、運営推進会議のメンバーに加わって頂きました。認知症の高齢者について、参考にして頂けることもあるかと思われます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議が、今年度も行えない状況にて、書面にて状況報告を行い、ご意見を伺いました。書面の返信だけでなく、お電話でも、お気軽に問い合わせ頂けるようにし、サービスの向上に活かせるに努めております。	コロナ禍で書面での開催となっているが、行政の方が来て直接話をする機会があったり、メンバーは以前からの付き合いでもある交番の方、区長、市役所の方、包括、家族からの意見を書面でもらったりしておりサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族への状況報告とご意見の収集を書面にて行い、その内容を会議録として市へ提出致しました。書面にて、ご家族からのご意見と区長様や交番所長からのご意見も頂いております。	行政担当者とはコロナの感染状況やワクチンについての問い合わせなど連絡を取り合っている。運営推進会議の内容を書面にて報告したり、家族からの意見を市に報告し、施設の状況を把握してもらったりしている。市からも意見をもらいながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束をしないケアに関して、随時、事例を挙げてミーティングを行っております。身体的拘束となる具体的な行為や、もしかしたら身体的拘束になる事についても、考察しています。	法人全体と施設でのマニュアルがあり、3ヶ月に1回以上委員会を開催している。研修としてはないが、定期的にミーティングでヒヤリハットの中から事例を挙げ、グレーゾーンのケアが身体抑制につながらないかを管理者と職員で話し合いを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に成り得るグレーゾーンにも目を向け、随時、ミーティングを行い、虐待や虐待に成り得る事のないよう、意識を高め、職員全体で努めております。	虐待防止についてのマニュアルがあり、身体拘束をしないケアの実践と同様に定期的にミーティングで事例を挙げ、虐待について職員間で話し合い振り返る機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方が1名入居されており、関係者と共に、ご本人を協力して支援する立場にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族に対し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご要望は、できる限り随時対応し、ご家族からのご意見も頂けるように、書面でもお伝えしております。直接でも、ご意見を頂いた場合は、改善できるように努め、書面でもお伝えするようしております。	家族からは書面や電話にて意見を聞いており、利用者の意見はケアの方向性として個別ファイルに記入されている。利用者からの要望をできる限り叶えるために家族に確認をとったり、利用者や家族の意見を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ケアマネ共に現場を兼務している ので、日常的にスタッフからの意見や相談を受け、共に考え、良い形と一緒に作り上げていけるように努めております。	施設内の雰囲気がとても良く、常に管理者が現場に入っており日頃から職員と密にやり取りがされていることが伝わってくる。地域密着型の施設であり第二の家として利用者が過ごしやすい環境を目指しているという管理者の「思い」が職員にもしっかり伝わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ストレスのない職場や環境作り に取り組み、現場責任者である管理者からの報告から、希望時には社員個々とも面談したり、広く環境の整備に目を向けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	今年度もコロナ禍による研修中止にて、 外部研修の機会は不足しております。苑内 でのミーティングにて、身近な事例を通じ て、現場で考えることから、質の高い取 組みを目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質 を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHとの通年の交流会や、ミー ティングの機会も今年度も自粛しており、 電話やメールにて、意見を交換して おります。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づく りに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族にご 意見を頂き、安心して生活ができるよ う支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、関係づくりに努めている	入居時に、本人やご家族のご意向を伺 いながら、ご家族と共に、ご本人をさ りげなく支えていく方針であると説明 しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の定期受診対応を原則的にご家族へ依頼しますが、急変時や不都合がある場合はその限りでなく、適宜、苑にて対応したり、連携医やそれ以外の医師とも連携を深め、臨機応変に対応できております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のご利用者の意向を組み取り、介助者の一方的価値観にとられることなく、残存機能を活かす事や自立支援の考え方にて、過介護ではなく、さりげなくも的を得た支援ができるように努めています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在がご本人にとって一番大切であり、「第二の家」である当苑で、我々は、ご家族と共にご本人を支えていく姿勢であると、入居時より退去となるまで、一貫してお伝えしております。	第二の家として、事業所での生活が過ごしやすいく所であると家族にも伝わるよう施設全体の雰囲気作りを大切にしている。コロナ禍でも病院の受診対応は、家族にしてもらい利用者と一緒に支えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が続き、馴染みの場所へお連れする機会も少ないですが、感染予防に留意しながら、馴染みの美容室へお連れし、変わらぬ関係性の支援にも努めています。	コロナ禍でも利用者の馴染みの美容室の方との関係が途切れることなく、継続して利用している。外食や買い物、温泉など、今まで当たり前のように行っていた場所に行くのをコロナ禍で制限していたが、少しずつ外出する機会を作っていけるよう検討し支援に繋げようと努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、和やかな雰囲気の中で、無理せず過ごせるよう、環境設定や関わりにも心掛けております。ご利用者同士の自然な形での仲の良さが見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられても、これまでの関係性に変化が生じることはなく、変わらず、できる限りで対応致しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の自宅訪問にてご本人やご家族からの思いや意向についても伺い、面接シートを作成し、職員間に意向を共有している。入居後の意向にも添えるように本人本位に検討しながら支援に取り組んでおります。	基本的な情報も含め、面接シートを用いて入居前に利用者本人や家族から意向を確認している。入居前の情報を職員にも共有し、入居後は本人の様子を見ながら意向確認を適宜行い、支援に繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後の聞き取りから、ご本人の意向を受け取り、できる限りでその方らしい生活ができるような支援に努めています。	入居前の面談時に本人の習慣や好きなものを伺い、事業所でできることを検討しており、本人が落ち着く居室空間など環境を整えられるよう配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が、心身共に健やかで、苑での暮らしが「第二の家」と思える程に、居心地の良い、安心できる生活の場になるよう、努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日々の暮らしを通じて得られた情報に基づき、ケアマネージャーと居室担当者が中心となって、全職員からの意見や提案も考慮し、現状に即した介護計画を作成しています。	入所後1ヶ月は利用者の様子や変化などを見て、入居時の利用申込み時の本人・家族の希望や意向を記入してもらった情報を参考にし、計画作成者と居室担当職員が中心になりケアプランを作成している。ケアプラン作成後送付し、電話や家族来所持に説明しサインを貰っており、毎月モニタリングを行い、プラン変更等対応しながら定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者へのケア内容は、個別記録に残す他、ケア内容の提案は、休憩室に挙げて、職員が意見を出しやすいようにして、みんなで考え、共有し、改善していくように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれない、ニーズへの対応力を自負しておりますが、コロナ禍においては、積極的なニーズの引き出しとアプローチが不足している現状です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前のように歩いて近くのケーキを食べに行ったりはできませんが、穏やかな日差しの日、苑の庭で体操やお茶を飲んだりしていると、ご近所の方たちが声をかけて下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医や連携医以外の対応となっても、ご家族のご協力もお願いしながら、苑の看護師が、医師との連携の主体となり、迅速で適切に対応するように努めております。	受診は本人・家族の希望などを伺いながら受診支援や現状報告等や連携・連絡をとるなどして支援している。連携医師受診の場合は看護師が受診状況を報告し、連携医以外には、計画作成者が利用者の受診状況を記入の上、同行する家族に渡して状況をお知らせしている。連携医以外でもサポートしてくれる地域の病院など、看護師・管理者・家族など必要に応じて受診への連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員が連携し、日々、情報を共有し合い、些細な状態変化も看護師へ相談し、適宜受診するなど、適切な判断にて、ご利用者の体調管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関やご家族と退院の日時等の連絡を行い、状態の報告を受け、早期の退院に繋がるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、入居時にご説明し、週末期には再度、ご家族と話し合い、看護師を中心に医療機関と連携を図り、ご家族の協力も得て、看取りケアを実施しています。	入居時・契約時の説明では事業所として重度化終末期の対応について説明を行い、利用者が望んで家族の協力を得ながら、最後までここで過ごせるよう「看取り」もあることを利用者家族に説明している。事業所の「看取り介護の指針」のマニュアルには、趣旨・看取り介護の考え方・施設での職員の姿勢や同意書等々看護師を中心にした対応と医療機関との連携が明記され、ケアプランにもその旨を明記し、チームで支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、AEDが設置され、消防職員より実践講習を受け、実践力を身に付けています。各フロアに救急シートを置き、緊急時に慌てず対応できる体制を作っております。	急変時や事故発生に備えマニュアルは整備されAEDが設置されている。コロナ禍の現在ではあるが、今年度も地域の消防署より指導があり職員は受講することができた。緊急事態発生時の対応と連絡網・マニュアルは整備されており、救急シートを置くなどの対応・体制づくりを行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、人員が不足の時間を想定して行うことで連携力を養っています。迅速に避難誘導ができるように、消防署員立ち合いのもと、指導を仰いで実践しています。	去年は水害時の対応・今年は火災時の対応訓練をおこなっている。できるだけ実践的な訓練を行うため、消防署にも協力してもらい実施している。コロナ禍が落ち着いたら利用者全員が参加し、地域の方にも参加してもらおう形での以前のような訓練を再開したいと管理者は思っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分や自分の大切な家族がこのケアをされているとしたら」と考えてから支援してほしいと伝えております。ミーティングの事例においても、家族や自分だったらどう思うか、照らし合わせて考える機会を持ちながら取り組んでいます。	「個人情報保護」についての規定はあり、日々のケアの中で、管理者は「自分や自分の家族が利用していると考えて等」分かり易い言葉で職員に話している。不適切な言葉や対応についてもその都度注意したり、話題の中で取り入れて対応している。	利用者一人一人が持つ「人としての権利」を理解することはその人らしい生活を支援するための大切な部分である。今後はプライバシー保護のマニュアルの整備や研修を行い、利用者尊重の理解が支援としての趣旨・考え方・対応に反映できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の観察から、動作や仕草など、伝えられないことがあったとしても、考察し、その方が安心できる配慮を行い、さりげない支援を心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的な介助ではなく、人と人との折り合いや失礼のない適切な距離感と、それでいて家族のような温もりとやさしさを与えることができるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ定期的に行かれる方もおられ、身なりや気持ちも若々しくいられるように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、苑の専門調理師によるメニューで、旬の食材を生かした調理を提供しています。多数決にて希望されたお寿司では、調理師が握り寿司を本格的に作成し、召し上がって頂くなど、食への楽しみをいつも心掛けております。	調理師の資格を持つ職員がおり、利用者の希望や季節に合わせた献立づくりで、食事や手作りおやつも好評である。利用者も食事を楽しみにしており、無理なくできる野菜の皮むきや下こしらえ・テーブルふき等、プランのサービス内容にも反映し参加している。また、面会に来られる家族の方にも、利用者と一緒に食事を楽しんでもらえるように(実費)貼り紙をして喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録、栄養状態を把握し、嗜好や禁止食材、食事形態を職員間で共有しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングでも、適宜行っております。声掛け、セッティングにて自力で行えるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、利用者の自立度に合わせた介助を行い、生活動作を通じての身体機能、下肢筋力の維持に目を向け、自立支援、残存機能の維持ができるように努めております。	利用者個別の排泄パターンは生活記録に記入し、どのタイミングで誘導するか？夜間の声掛けは何時に行うか？等を話し合いながら共有し、できるだけトイレでの排泄介助ができるよう、職員は心がけながら丁寧に対応し支援している様子が窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールができない方に関して、看護師より医師へ相談してもらい、整腸剤や下剤を処方して頂き、使用に関して、情報を共有しながら、なるべくストレスなくスムーズな通じになるように、取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前と午後の入浴時間があり、状態に応じて、安心して入浴が楽しめるように支援しております。浴室内の事故防止や、安全で気持ち良く入浴が楽しめるように努め、入浴中の1対1のコミュニケーションも大切にしております。	入浴時間は、ゆっくり安心して入ってもらえるよう、必要な方には、利用者と職員の1対1の大事な時間として対応している。季節によつてのゆず湯など、季節を感じるようなサービスが提供されており、コロナ前は足湯や温泉入浴を楽しむなどの個々の想いに沿った支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリのある生活の提供だけでなく、その方の生活習慣や体調にも考慮しながら、自宅のように楽な気持ちで生活して頂けるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、苑の看護師が主体となり、個々の内服状況や内服薬の説明においても、わかりやすく可視化し、職員間で共有できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	安心して、自宅にいるような気持ちで過ごして頂くことと、生活歴や趣味嗜好に応じて、苑でも入居前と同じく、楽しんでもらえるよう個々の支援にも取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	従来、家族や地域の方々にも協力して頂き、温泉、花見、ぶどう狩り、新発田イオンでの買い物など、多くの外出をしてきました。コロナ禍で自粛しての期間が長くなりましたが、徐々に、可能な限り、楽しみな外出支援をしていきたいと思っております。	移動販売車が毎週事業所駐車場に来ており、利用者はおやつや好みの物を購入している。また地域の方のサポートがあり、ブドウ狩りに出かけておいしい葡萄を食べるなど楽しみを感じてもらってる。これからは、今まで行っていたことが少しずつ出来るように、管理者はじめ職員は、家族の意向もあり、再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しており、ご希望に応じて買い物を代行したり、近くのドラッグストアであれば、一緒に出掛けて買い物することも再開しております。毎週火曜日は、移動販売車が苑を訪れ、利用者で賑わいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から本人に電話がきたり、ご本人がご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内は吹き抜けの天井で明るく、共有スペースの中にも個々にいられる空間もあり、其々が気兼ねなく落ち着いて過ごせるように、テーブル配置も工夫しております。何気なく飾られている季節ごとの花も、ご利用やに喜ばれ、玄関の装飾にも、季節感を取り入れていきます。	事業所の中は、天井高く明るく、清潔に清掃され壁等も綺麗で落ち着いた雰囲気を感じられる。また、事業所前の畑には季節が感じられるような、さまざまな花や野菜が植栽され、住む場所としての配慮がされており、居心地の良い空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用が気兼ねなく、ご自宅のように落ち着いて楽に過ごせるように考慮し、自然と集う仲間たちは賑やかに、ゆっくり静かに新聞を読む方は、落ち着いたスペースでと其々に適した場所作りをしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのある物や、孫の写真、お気に入りの歌手のポスターが貼られていたり、自由で其々が居心地良く過ごせるようになっています。掃除専門の職員が隅々まできれいに掃除しており、気持ち良い環境作りに努めています。	入居時にベッドの配置や使い慣れたタンスやテレビ等、私物の配置は利用者の状況に合わせて設置している。職員は利用者の動作を予測し、ライト等を整備したり状況に合わせて対応して生活しやすいよう配慮している。利用者は、好きな歌手のグッズを置いたり孫の写真を飾って心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、現在の状況で、安全に無理なく生活できて、かつできる部分が長くできる限り続くように見極め、さりげなくも、しっかりと支援できるように努めています。		